

タンネウシ 2



ゴゼンタチバナ

第26回 知床博物館特別展

月号

『活火山 羅臼岳』 ~ 2 / 2 7 (日)まで開催中！

* 博物館 1 Fホールにて開催しています

特別展関連講座

~ 特別講演会 ~ 「活火山・羅臼岳の噴火史と山体形成」

2月12日(土)

19:00 ~ 21:00

講師：後藤芳彦助教授

(室蘭工業大学環境防災工学講座)

会場 博物館 2 F映像展示室

定員 70名 参加無料

事前にお申込ください

羅臼岳は知床硫黄山より若い火山で、今から2,300年前、1,500年前、700年前と約800年周期で噴火していることが最近の研究で分かりました。今までの噴火で羅臼岳がどのように山の形を変えてきたのか、また今後噴火するとどのような噴火になるのかなど、長年に渡り知床の火山を研究しておられる後藤先生に紹介していただきます。

平成16年度発掘調査の概要報告

平成16年は来運1遺跡と来運5遺跡を5月から、ウトロ遺跡を9月から発掘調査しました。

来運1遺跡は新聞各紙に紹介されたように、日本ではじめて縄文時代の壁材と思われる炭化した木材(壁支柱と横木か)が良好な状態で発見されました。これまで国内の縄文時代の遺跡では竪穴を掘り、そこに屋根をかぶせたものが土に埋もれた竪穴住居跡の出土例は見つかっているのですが、平地住居とされるものは平坦な地面に柱穴とされるものが残されているだけであるため、住居構造がどのような形態であるかは建築学の専門家による予想図でしか窺い知ることはできませんでした。ところが、今回の当町来運での壁を有し、竪穴を掘らない住居が日本で最初に再現可能な形で見

2月の講座、定員に余裕があります
参加される方はお申込ください

26日(土)天体講座

「木星・土星と冬の星座観察会」

19:00 ~ 20:00

*いま話題のマックホルツ彗星も観察します

27日(日) 羅臼岳の石を磨いて

ペーパーウェイトを作ろう

10:00 ~、13:00 ~、
15:00 ~



ウトロ遺跡発掘作業の様子

つかり、平地住居の具体的な建築方法や技術の一部が明らかにされました。

今後は竪穴住居と平地住居、三内丸山遺跡などで紹介されている掘立て柱の建物跡の異なるタイプのものが、どのような環境でいかなる理由で建てられたのかを来運1遺跡の「焼けた建物遺構」が教えてくれるでしょう。考古学者のみならず、古建築学の研究者からも注目されており、詳細な調査が望まれています。

来運5遺跡は、来運1遺跡に隣接し小さな面積しか発掘しなかったこともあり、見過ごされがちですが、遺物出土密度が濃い遺跡でした。出土遺物から、来運5遺跡も来運1遺跡も縄文中期を主とし、縄文早期も包含するなど多くの点で似た遺跡です。

ウトロ遺跡は、ウトロ市街地のウトロ東地区に分布し、また、ペレケ川による河川堆積物、崖の崩壊堆積物、そして海岸砂丘によって形成された平坦面に作られた遺跡です。

裏面へ続く→